

けつめつ 決裂 云 695^p

は、次 2行

紀下170^p 井上(下) 122

大ナワ 563^p キラヒ、キラフ ランズ 同文

3.543^p - 1/5

同文 3544^p - 1/2 3552^p 15行

紀下170^p

おせ

東西二朝の決裂、いま再び

(五九二)

先ず、崇峻紀五年条の全文を書き写しておこう。次に、次のように記さへいる。

五年の冬十月の癸酉の朔丙子(四日)に、山猪を献る事有り。天皇、猪を指して詔して曰はく、

何の時に此の猪の頸を断るか如く、朕

が嫌しとおもふ所の人を断らむ。とのたまふ。多く兵仗を設くる事、常より

も異なること有り。壬午(十日)に、蘇我馬子宿禰、天皇の詔

をたまたまふ所を開きて、己を嫌むらひきことを

恐る。儻者(一族の者、徒党)を招き聚めて

天皇を弑せまつらむと謀る。是の月に、大法興寺の佛堂と歩廊(廻廊)

とを起つ。十一月の癸卯の朔乙巳(三日)に、馬子宿

不均等

禰群臣を詐めて(だまして)曰はく、

「今日、東國の調を進る」

といふ。乃ち、東漢直駒をして、天皇を弑せ

まつらしむ。

或本に云はく、東漢直駒は、東漢直磐井

(他に見えぬ)が子なりといふ。

是の日に、天皇を倉梯岡陵に葬りまつる。

或本に云はく、大伴嬪小手子、寵の衰へ

ことを恨みて、人を蘇我馬子宿禰のもとに使

りて曰はく、

「頃者、山猪を献れること有り。天皇、猪

を指して詔して曰はく、猪の頸を断らむ如

く、何の時にか朕が思ふ人を断らむとのた

まふ。且、内裏にして、大に兵仗を作る

といふ。是に、馬子宿禰、聴きて驚くとい

ふ。馬子宿禰は聴いてビクリしたのたうう

丁未へ五日に、驛使(早馬)を筑紫將軍

の所に遣して、外の事を莫怠りそ

と曰ふ。尚、誰がこう言つたのか不明。

かし恐らく、孝元天皇暗殺事件のことを未だ

3,543^p-3/5

馬子の姫の3563^p

3/25 下 3/25
3/25

御存いで

ない崇峻天皇が仰せられたのであろう
 是の月に、東漢直駒、蘇我姫河上娘(孝元
 天皇の嬪であらう)を偷隠みて、妻とす。河
 上娘は、蘇我馬子宿禰の女なり。馬子宿禰、
 忽河上娘が、駒が爲に偷まをし知らずして
 死去りけむと謂ふ。駒、嬪を汗せる事蹟れて
 大臣の爲に殺されぬ
 とある。

*

はなはたさるる

だ

3543^{P-1/310}
紀下170^P69

紀下170^P
宇治谷下76^P

3,543^{P-4/5}

紀下170^P
或本参照

朕が嫌しとおもふ所の人を断らむ

崇峻五年（五九二）十月四日、西と東の二

朝間には、一触即発の緊迫した、重苦しい空

気が漂っていた。

そんなとき、山猪が献上されてきた。

崇峻天皇は、憤怒の面持でその猪を睨め付

け、指して、声も荒々しくこう言われた。

何の時に、此の猪の頸を断るが如く、

朕が嫌しとおもふ所の人（東の大王）を断ら

む（斬りたい）

そこで崇峻天皇は、武器を内裏に集めて、

東国との戦いに備えられた。（崇峻紀五年

十月四日条。同十一月三日或本条参照）

米

通

へ崇峻紀五年十月四日条に述べられている

朕が嫌しとおもふ所の人と

は、

たそ 巧に 1365
朝のあけすけ 包み隠さず

3,543^P-5/5
さっか 片 892
錯 2249^P

亀井 121^P
誘導 2249^P

亀井 126, 127^P

蘇我馬子宿禰大臣のことある
と解されてきた。

しかし、もしもそうなら、もってまわった
言い方をせよ、単刀直入に、

「馬子宿禰を断らむし
と記せばよいところである。

恐れ、
(1) 崇峻天皇が「誰」を斬りたいと思われたの

か、それを明白に記載したら、
「この当時、一つの朝廷を併存させていた」という事、
実が露顕する。

(2) そこで「誰」を斬ろうと思われたのかを
伏せ、読者を巧に誘導して、

「天皇は、馬子宿禰を斬りたいと思われた」と錯覚するように記述した、

というのが真相なのであろう。と観察される。
また、通常、

「崇峻天皇は、このころ天皇に匹敵するほどの
大きな勢力を誇っていた。蘇我馬子宿禰に、返

討にあって殺害された。」
と解されてゐる。(「聖徳太子」亀井勝一郎

日本ソノサービスセンター、一二六七七頁。他参照)

かし、そのようなるそれが真実であつたとすれば、何とも奇妙である。

①へ崇峻天皇暗殺を謀る異常な反逆者馬子宿禰は、謀反を企みつつも、一方では、

その同じ月に、法興寺の仏堂と歩廊とを焚心に起した。

ということになる。

崇峻紀五年（五九二）十月十日条に、こう

記されてゐる。

蘇我馬子宿禰、天皇の詔したまふ所を聞き

きて、己を嫌むらうきことを恐る。儻者を招

き聚めて、天皇を弑せまつらむと謀る。是の月に、大法興寺の佛堂と歩廊とを起

つ（既述）

血を窺う手と、合掌の手とは、馬子にとつて、何ら矛盾でなかつたというのだ。

②「聖徳太子」電井勝一郎、日本ソサエティス、二五頁参照

へ天皇を弑せまつた後の蘇我馬子宿禰大

悔恨

推古天皇や聖徳太子の側にも、蘇我打倒を企
図した気配が全く感じられない

のである。(「聖徳太子」亀井勝一郎)

五頁、一二六頁参照

日本ソノハリスライター

③それどころか、推古天皇は、畏み仕える蘇

我氏をたたえ

真蘇我よ 蘇我の子らは

馬ならば 日向の駒

太刀ならば 吳の真刀

諾いかも 蘇我の子らを

大君の使はすらいき

という讃稱の歌をお作りになつたのだ。

(推古紀二十年正月七日条参照)

④さらに、日本書紀の編者もまた、蘇我馬子

の死を悼み

「性、武略有りて、亦辨才有り。以て三

宝を恭み敬ひて、云々

という讃辞をおくつてゐる。

■とうてい、臣下である蘇我馬子宿禰大臣が

へ崇峻天皇暗殺を謀った

とは考えにくい。

天皇位をうかがった
次頁 12行

→ いかか、左 廻り 12 行

H4.12.29 (土) 17:24
仕組む 956P
知3由 1138P
ねに 振 1724P

3,545P-3/2

あ? 馬 敬う 212
え 44P
と? あれ 3553P 新

昭

ともかく *

崇峻紀五年条の記事以外の日

本書紀の文面を見

蘇我馬子は、仏を篤く敬い、聖徳太子を献

身的に補佐し、忠臣とたたえられ、死

で借られ称讃された

ように解される。

つまり、日本書紀の編纂当時、蘇我馬子

は、

へ天皇を暗殺し、天皇位をうかった

として、執筆者達により、忌み嫌われ、憎ま

れていったというわけではなさそうである。

現代の我々の解釈は、どこかで振

ようである

崇峻紀五年条の記述には、

の後身、新元興寺、本元興寺は

人巧妙なカラウリ

だが、そんなことなど知る由もない我々は

また、蘇我馬子によって造営された法興寺、元興寺

3,546^P

(こと)

へその巧みな仕掛けに気づかず、書かれて
 いる字句と字句とのつながりを、きめめて
 常識的に判断して、——単純にも、日本書
 紀の筆者がしくんだ落穴の中に陥り込んでい
 まって、いる。✓
 といえようか。
 ■なお、日本書紀の記述の裏に隠された真実
 の歴史を読み取ろうとする時には、天皇の
 という表記の解釈に、
 なければならぬ。
 格別
 細心の注意を払わ
 なければならぬ。
 天皇と記されているだけでは、
 どの天皇のことについているのか、曖昧
 な場合が多いからである。
 ■それでは、これより以降、蘇我馬子宿禰大臣を
 温順な忠誠心厚い大臣として述べてゆくこ
 とにしよう。

米

出仕 乙1067
勤務に出ること

あめただ
それ自ず 慌いなる 3,547P
①197P 荒筋

おりおり 折折 333P 同又 紀F170P
①3543-1/5 ②3543-1/5 同又

き 小林 43P をにか
殺し い 364P
き 小林 43P
大カ 61P

弒于天皇 (天皇を弒す)

先述のよう、崇峻五年(五九二)十

月四日、崇峻天皇は、献上されてきた山猪を

指し、詔して、

「何の時に、此の猪の頸を断るが如く、

朕がにくいと思ふところの人(東の大王)を

斬りたいものだ」

と仰せられた。

ところが、その折も折も、都の内に、

蘇我馬子宿禰大臣の姿が無かった。

蘇我馬子宿禰は、是の月に起て始めた大法

興寺建立の儀で、慌しく奔走し、あるいは陣

頭指揮していたのかも知れない。

この非常の時に大臣の姿が見えない

という事、自体が、気の短い崇峻天皇にとつ

て、我慢ならなかった。

蘇我馬子宿禰は、法興寺の仏堂と歩廊と

を起るため、ここ数日、朝廷に出仕して

いなのだ

藤原兼輔 1939 藤原上83 新 徒事 元1374 常のこし
田村内 197 3583 馬子 狂乱 3564

ニテコ 小千子 3543-35 35 42(みめ) 171 注21

3548P

と、いうことは分つていて、
は、その者が居ないというだけで、崇峻天皇は
腹立たしく思いになるのだ。
「ええい、蘇我馬子はどこで何をしておる
のだ。大臣ともあろう者が、このただならな
い時に、内裏に居ないということがあるよ
いものか。東国の虚仮威の勢いに恐れをな
し、どこかで震えているのではないか」
教皇のその声は、崇峻天皇の妃大伴糠手
連の女小千子の耳にも入った。
また、内裏の中に、
集められはじめた。その緊迫したとは、
違つていた。様相は常日頃と随分
「一体、どういふことになるのでしよう」
妃小千子は、胸にめつけられる思いで、
ただならぬ人々の動きを、そつと見
つめていた。
なお、平安前期の藤原兼輔(三十六歌仙の
一人、八七七-九三三)は、著書「聖徳太子
伝」に、崇峻五年二月条において、

るものの

宇治分下?? 3543-3/5 11行
3549P
3543-3/5 11行

197P 荒筋 六日後 次頁 2行
10月10日 10月4日 前頁 3~4行

「崇峻天皇に雅量が反けていた」
562.10.24(木) 腸は腸の俗字
大正 1828 腸 1825

小井 307
小井 623
小井 1050
不正
1442
ナルモ
242

物に屈せざる気質

「(崇峻)天皇為性剛腸不容物非」
と指擧してゐる。(「聖徳太子」田村円澄、
中公新書、一九頁。「広辞苑」へ藤原兼輔
参照)

「それから六日後になつて、朝廷内の異常
な様子が、蘇我馬子宿禰大臣のもとへ伝えら
れた。」

崇峻五年 十月十日。崇峻天皇の妃小手

子か、人を蘇我馬子宿禰のもとに遣はして

た。大王は猪を指さして、曰猪の首を断る

とおつせられた。何の時に、朕が思う人を断りたり
と、内裏に数多くの

武器を集めておられますし
と告げたのだった。

「内裏に大量の武器を集めるといふそんなにも重
言伝てを聞いた馬子宿禰は驚き、

大なることを、大王は、大臣である私に、何故

紀下170⁸ 8行
③3543-1/5 15行

龜井111^P
紀下167^P 新
紀下170^P

③3500-1/2
宇治谷F69^P
紀下160^P 3,550^P
29行

一言おっしやって下さらなかつたのだろう。
六日後になつて、朝廷からでなく、妃か
ら伝えられたという。[]は悲しいことだ。
大王は、あるいは、己を嫌つておいでなの
だろうか。
と恐れられた。

因みに述べると、旧事紀訓解によれば、
大伴糠手連の女小手子は、蘇我馬子宿禰
の姪にあたるという、この時期における蘇我
大伴両家間には、深い絆があつた。
という。へ「聖徳太子」亀井勝一郎、日本ソノサ
ー

一一頁参照
所在地不詳、肥後国下益城郡城南町

例えば、用明紀二年四月条に、
大伴毗羅夫連は、手に弓矢・皮楯をとつ

て、観曲隈庄あたりかの蘇我馬子宿禰大
臣の家へ行き、昼夜を分たか守つた。

と記されておられ、蘇我・大伴両家
は実に密接な関係にあつたことがかえる。

・そうした間柄であつたから、小手子は、馬
子宿禰に

う。宮中の騒然とした情況

*
③3548 11行
あいただ
忙し

記(四)129P
紀上346Pの歌 武内宿禰の歌
サ上上306P

てい
おれ
す
1515P
代
おれ
おれ
おれ

3,551P

記下170P
記下170P
909P
小林
909P

56210/25(10)P
記下170P

ここに、蘇我馬子宿禰大臣は、
武内宿禰の末孫であるこの私蘇我馬子宿
禰の腹の中に、小石が詰っているわけでは
ない。
と思うのだった。(「孝元記」建内宿禰の系譜
神功皇后紀撰政元年三月条の歌謡参照)
大王(崇峻天皇)に厭われ、
は、忠孝と武勇とを示さずして、このままお
めおめ西の大倭国の大匠を務め続けるわけ
にはいかぬ。
己こそか、大王(崇峻天皇)の御爲に、身
を挺して大功をたてたいものだ。
そして指令を発し、一族の首領や徒党の
者達全てを招き集めると、蘇我馬子宿禰は東
の朝廷に對する策略を練った。
この度の進退にこそ、蘇我氏の命運がか
かっている。わか蘇我の儻者(一族の首領)徒
党共よ。心を一つにして、纏まらねばなら
ぬ。
何と
日本書紀には、

「蘇我馬子宿禰が儻者を招き聚めて、
天皇を弑せまつらむと謀る」と記載されている。(既述)
これは結果から導き出さ
れたもの、すなわち言葉の文と
いうものであろう。
敬虔な仏教徒であり、天皇あつたの大臣で
あることを熟知しているはずの蘇我馬子宿禰
が、天皇を弑逆するなどという不遜極まりな
たいそめた謀叛を企てたとは到底思
えない。
東と西の二朝の間に何事があつたのかは推し
量り難いが、たとえこの一時期、不幸にも仲
違が生じ、東西に別れて敵対するようにな
になつていたとしても、――それはそれ、
天皇家の血族内の揉事なのである。
崇峻天皇に命ぜられたわけでもないのに、
蘇我馬子宿禰が自らすすんで、
へ天皇暗殺を企てることさ、当初から計画し
ていた。
などとはとても考えにくい。
おそろく蘇我馬子は、東西二朝の融和をは
かろうとしていたのであろう。
「荒筋」第二編において

前頁14 10月10日に3時35分 3544-1/2 11行
 3545-2 4行
 東漢氏 紀下95注13 3,553 P
 やまのあやみ 山陽 紀上318 P
 やまのあやみ 東山 紀下390 P
 新やい ちうほう 毛頭 広2182 P 11行
 藤原(84) 84 P 亀井112 P

また、追って述べるように、日聖徳太子伝
 暦山崇峻五年条には、天皇弑逆の後の日狂乱
 の馬子』の有様が描かれていて、
 へ天皇を弑する意図など、馬子には全く無
 かつた
 ことかうかがえる。(第六十八章へ蘇我馬子
 の悲嘆の項において詳述したい)

＊

山の道(山陽道)を駆け降ってゆく蘇我馬
 子宿禰を始めとする蘇我氏一族の集団の中に
 は、東漢直駒が疾走している姿もあつた。
 蘇我氏に渡来した阿知使主の子孫である東
 漢氏は、六世紀後半より次第に実務から遊離
 し、蘇我氏に接近して政界へ進出するように
 なつた、という。(『日本書紀』(『日本古典
 文学大系、岩波書店、一七一頁、注一六参
 照)ともある)

蘇我馬子宿禰は、約二十日間

亀井285

疾駆 809

そ(三)

みつき
調え 2/22 P

3,554 P

たいまよ P ころう小林 184P
退去 1331 口上 口頭で用向き
述べること。

1134 小林 宗峻 5年10月10日。
詐る 896 P 3549 10行
あきまて。

「けいふ たてまつ
今日進東(ま)國えの調(みつき)

ほど馬を馬(うま)り、東の日日日本国(にっぽん)の都(みやこ)へと
つた。

崇峻五年十一月三日、蘇我馬子宿(そがのうまこのすくね)

禰(ね)は、詐(いつめ)って、
調(みつき)を進(たてまつ)ります

今日(けふ)東国(あづま)の調(みつき)を進(たてまつ)ります

と言(い)った。
結果(けつこ)的に、調(みつき)を進(たてまつ)る直前(ちかひ)に事件(じけん)が起(お)こり

なお、ここ(こ)に、今日(けふ)云々(うんぐん)と記(き)され

いるところ(ところ)を見ると、

へ蘇我馬子宿禰(そがのうまこのすくね)は、このよう(よう)に用向(ようむ)きを伝(つた)

えた後(のち)、自(みづか)らは、退去(たいきょ)した

と推察(すいさ)される。

つまり、蘇我馬子宿禰(そがのうまこのすくね)は、

「今日(けふ)中(な)に、東国(あづま)の調(みつき)を進(たてまつ)りますので、ど

うぞお受け取り下(くだ)さいし

と申(もう)し述べ、朝廷(てうてい)から引きさ(ひ)がったのであ

らう、と思(おも)われる。

また、東国(あづま)の調(みつき)とは、

(1) へ日(ひ)東国(あづま)山(やま) (豊前・豊後・長門・周防あた

り)でとれる調(みつき) (みつぎもの) ✓

のこと(こと)なの(な)か、知(し)れない、
確定(てつてい)かでない。

(2) いや、蘇我馬子宿禰(そがのうまこのすくね)から東国(あづま) (日辺日本国(にっぽん)への調(みつき)もの) といった意味(いみ)ではな(な)かうか、
な(な)どとも思(おも)われるが、定(てい)かでない。

44.12.30(8)⑤
→ 562.10.27(大)⑤

① 3542-3/5 ② 3543-3/5

紀王233P/行

紀王170P/59

3.555P

① 3543-3/5
→ 562.10.26(大)⑤

みづきお云
新物 2122P

■ やがて、調物を携えて現われたのは、東漢直駒たちであった。

■ 東漢直駒は、調を遣ふふりをして、隙をう

かかひ、東の天皇を弑した。それは、あつと

いう間の出来事であった。

■ 即ち、十月四日に崇峻天皇が詔し

「朕が嫌しとおもふ所の人を断らむし

と公言さめたその言葉の通りとなつてしまつた

議な靈力によるのであろうか、ノノノ、ま

さしく、その言葉通りの事象がもたらされた

のだつた。→ 広辞苑に「言霊」参照

■ 是の日に下天皇「孝元天皇」を葬った

（崇峻紀五年十月言条参照）

・孝元天皇の御陵は、剣池嶋上陵（奈良県橿

原市大字石川字剣池上）であるという。

■ ともあれ、

「東の日辺日本国の天皇が弑されたことに

より、第二期二朝時代は突然に崩壊し

と解される。

米

一方、この思ひかけない計報は、
にと待ち空びる西の天皇(崇峻天皇)のもと
へも伝えられた。

耳を疑う崇峻天皇の顔に血の色はなかった。

崇峻天皇は、東の天皇を弑すに至った責
任を一身に負い、

十一月もくは十二月初旬に、天皇位を辞退
された、と察せられる。

崇峻上皇は、そののち長らく生を保たれ

七十二歳、あるいは七十三歳の時に
薨去されたのであろう。

と思われ。

平安時代以降の諸書に、異口同音に、
「崇峻天皇の崩年は、七十二、或は七十三
であった」

第二編へ繰り返される二朝の慣例、末尾
といるされているのである。

述。「日本書紀」(下)日本古典文学大系、岩波
書店、一七一頁、注一七参照)

(*)

巻末の八保寿表

3551-1/2
9表

ちようねん 天
重延 1458

紀下130^P

紀下152^P

3,557^P

紀下160^P

紀下213^P

密に伝えられていた各天皇の享年

一部重複するが、ここに欽明天皇以

降の各天皇の崩御の年、並びに享年を列記し

てみよう。以下巻末の「保寿表」参照

■欽明天皇。五十七年四月崩（紀）。一代要

記に六十二歳。皇代記等に六十三歳。神皇正

統記に八十一歳。

本朝皇統

■敏達天皇。五八五年八月崩（紀）。扶桑略

記・愚管抄等に二十四歳。皇代記・紹運録等

に四十八歳。神皇正統記に六十一歳。

■用明天皇。五八七年四月崩（紀）。神皇正

統記等に四十一歳。皇年代略記等に六十九歳

■崇峻天皇。五九二年十一月崩（紀）。平安

以降の諸書に七十二歳、或は七十三歳。

■推古天皇。六二八年三月崩（紀）。日本書

紀に七十五歳。

■聖徳太子（等与刀弥々大王）。推古二十九

紀下234^P新
紀F380^P

紀F350^P

紀下323^P 3,558^P
紀F234^P

622 49^キ
574
48

④3474^{P-3/4} 藤原上446^P 藤原上446^P 3474^{P-3/4} 49^キ 紀下203^P注1
塔婆 1571^P

年(六二一)二月五日崩(紀)。但し法隆寺

金堂釈迦像銘。聖徳太子伝私記法起寺塔婆婆露

盤銘によると、推古三十年(六二二)二月二

十二日崩。上宮聖徳太子伝補闕記に四十九歳

聖徳太子伝暦に五十歳。聖徳太子伝記に五十

一歳などとある。

もつとも、聖徳太子は、敏達三年(五七四)

生れ、推古三十年(六二二)崩、享年四十九

歳と考えてみたい。(第六十六章へ聖徳太子

誕生の年について参照)

舒明天皇。六四一年十月崩(紀)。皇胤紹

運録・一代要記などに四十九歳。

孝徳天皇。六五四年十月崩(紀)。享年は

不詳。

皇極・斉明天皇。六六一年七月崩(紀)。

帝王編年記に六十一歳。紹運録・水鏡などに

六十八歳。

本朝皇胤

天智天皇。六七一年十二月崩(紀)。舒明

十三年(六四一)十月条に年十六とあるのに

よれば四十六歳。帝説によれば四十七歳。平

法王

本朝

令和元.9.3. 辻井
 吉幡係 4.5歳 6歳
 リフォーム
 70-921

紀下534⁹ 122
 統紀自1-63⁹
 1-1-木

3,559^P

702 58オ
 -645
 57

紀下491⁹
 484⁹ 121

紀下480⁹
 1223

紀下380⁹

本朝皇胤

安以後の諸書によれば五十三歳、もしくは五十八歳。

■文武天皇。六八六年九月崩(紀)。一代要記・紹運録に六十五歳。神皇正統記などに七

十三歳とあるか、いすれも兄天智天皇より年

長となるので、今日では六十五歳を五十六歳

の倒錯とみ、舒明三年の誕生とみる説が有力

であるという。本朝皇胤

■持統天皇。大宝二年(七〇二)十二月崩。

紹運録・一代要記によれば大化元年(六四五)

生れといひ、享年は五十八歳であつたことに

なる。

■文武天皇。慶雲四年(七〇七)六月崩(統

紀)。懷風藻・水鏡などに崩年二十五とある。

・文武天皇(豊祖父天皇ともいう)は母元

明天皇に譲位されたのではなからうか。

・譲位後「文武上皇は豊祖父と呼ばれるは

どの長寿を保たれたのだろう」

67年(孝昭)

(*)

大化684年 皇極天皇元年
天智684年 皇極天皇元年

3,560^P

■このように、各天皇の享年について、
まじまちの記述があり、
いのだか、
■それでは、これらの書籍の著者達は、
の出鱈目を記載したのだろうか。それとも伝承
等をもとにし、あるいは何らかの計算根拠が
あつて、このような享年を書きしめたので
あろうか。
■なるほど、どう見ても、
手記に支離滅裂な享年を記述しているような感
がある。
■かー、筆者達は、決してそのような好い
加減な数字を並べたわけではあるまい。
●天皇を頂点とする平安時代の社会に生きた
述者達が、天皇の祖先の宝輪について軽々し
く論じた筈はない、と思われ。
●真実の歴史は、取り上げるに値しないかに
見える。これらの享年の記載の奥にこそ、隠さ
れているのではな
ろうか。

書き綴ったような印象を
執筆
纂者達が好き勝

著

全

H4.12.31(木)⑤
P

3,561^P

→平成元1/29(日)⑥

こと

*

とはいえず、長い年月を経た後の現在、
こゝろのバラバラに見える
をすっかりと秩序立てて理解することは困難
である。死や生、出来るとは思えない。
●それは難題であり、真実の各天皇の崩年を
明らかにするとは、恐らく不可能であろう。
■しかしあえて、参考迄ながら、この物語に
おける考え方の一端を『保寿表』に示してみた。
巻末の

大逆 1330^p 所以 2251^p 龜井 111^p 紀下 170^p

3.562^p

③ 3552^p 紀下 170^p 839^p

ううばいんつ 龜井 112^p

③ 3553^p - 1/2 69^p 全く 3567^p 3569^p

① 蘇我馬子

（頁参照）

「聖徳太子」 亀井勝一郎、日本ノサライ、一一

の大逆たる所以を知らせていたようである。

が天皇を弑せまつた当初から、これが異常

を照合してみると、蘇我馬子は、東漢直駒

・旧事紀曰、伝暦曰、書紀曰等の記述

の、~~だ~~かし、恐らく本当は、そうではなかつた

かのように受け取れる。

見ると、蘇我馬子は、始めから、天皇弑逆を企

てて、謀議した。

たしかに、崇峻紀五年十月十日条の記事を

狼心痛のきゆみにあつた。

殺の首謀者となつてしまつた蘇我馬子は、狼

全、思ひも寄らず、結果的にいつて天皇暗

蘇我馬子の悲嘆

3553^p 79

あつたことが

紀(F)171注24

理解 ③3566 3,563 P

是の月に... ③3543-3/5 何と③3568 185 3565 115

②東漢直駒

の二人の、天皇暗殺事件後の行動について、
想像を交え述べてみることにしよう。

＊から

東漢直駒は、天皇を弑したその同じ月に

何と蘇我嬪河上娘を偷隠み 自分の妻とし

てしまった。(崇峻紀五年十一月是の月条参照)

(1) 天皇(孝元天皇)を弑逆したばかりか、

(2) 天皇(孝元天皇)の嬪を盗んで自分のもの

にした、
どんな結末

ということが、どのような結果をもたらすの

か、
帰化人である東漢直駒には、

理解のしようもなかったのであらう。

■なお、崇峻紀中に、

「河上娘を嬪とした」

という記載が無いところから推し量ると

へ蘇我馬子宿禰の娘、河上娘は、東の日

辺日本国の天皇(孝元天皇)の嬪になっ

たのであらう。

と思われ。

＊

次 53
裁 裁

コクヨ ケー20 20×20

たや 元1401^P 二時 高() 紀下171 未行 およんはか^P
容易(=軽) () 藤原上84^P 愈る 元330^P
だいふく 元1341^P 更-いはか3

比目分かいもくから

通一、飛び去っていった。
 ■ここに馬子は、次の矢を弓につかえろと、
 また叫んだ。
 「汝、性痴驕にして吾が怒りを慮からず、
 輒く奴の手を以て天皇を弑し奉る。罪の
 二也」
 ●蘇我馬子の声は震えていた。
 「駒よ、そのようなことをしたら私が怒る
 だろうと、どうも思い至らなかつたのだ。吾
 が怒りを慮からずして、輕輕く奴の手を以
 て天皇を弑し奉ってしまった。何というだ
 いそれたことをしてくれたのだ」
 ●だが駒は、性痴驕にして、理由で
 へ大臣かどんな怒っているのか、
 今もなお見当がつかないでいた。
 ●大きく引き絞られた矢は、放たれて駒の肩
 先を掠め、矢羽根が一瞬にして衣を引き裂い
 た。
 ●駒は、大きな武功をあげたはずの自分か、
 なせこんな目にあわねばならないのか、
 命を

え694^p 決然 決意したま へめかみ 833^p
おうおうえ204^p をか 女干す 285^p
ほしはるえ2046^p (勢いよく)

3.566^p-1/2

のっぴき 退引ならぬ 1746^p のっぴきなき 退引き

え2048^p

え36^p

なかつた。
・それは分らなかつたが、いま大臣の列に
い怒りの前に居る。という現実だけは理解は
ることか出来た。肌身で感じ取
へこのままでは、殺されるかも知れない。
大臣のこの怒りを鎮めるには、どうすればよ
いのだろうか。
・駒は、のっぴきならなり立場にいる自分の
命を救うため、必死になつてその答えを探
し求めた。
■馬子は、さらに、三本目の矢を弓につかえ
た。気が触れたかと思われ、ばかりのその凄
しい形相か、駒からほんの数歩の近さにあつ
た。
・そして、キリキリと弓を引き絞るなか
ら馬子の三たび目の怒声が、駒の耳元に鋭く
響いた。
「汝ひそかに天皇の嬪を奸す。罪の三也」
・そして、バツと放たれた矢は、駒の額に
あたりを擦った。
ほとばしる血が、頬を伝い、足許にた

る(キ)では

リ落ちていった。
「おうおう、蘇我の大臣よ。俺を殺すつも
りか」
矢傷を負わされた駒は、~~最早~~ 今までの
駒ではなかった。
駒は、決然として蘇我馬子宿禰大臣を睨み
つける。と、豪胆にも、こう言い放った。
「吾其の時唯大臣のみ識りて、未だ天皇の
尊ことを識らず。自余(そのほか)のことに
ついては、敢へて辞(いいわけ)・謝(わい)
せむ」
大臣が恭しくお仕えしている天皇
もつとも、駒は恐らく、西の天皇の尊厳さ
について知っていたであろう。
大臣は仕える身である駒は、大臣及び西の
天皇の御爲と思つたからこそ、――敵対して
いた東の朝廷の内深くへ入り込み、天皇を弑
した、と想察される。
へ東の天皇もまたそんなに尊いのであ
れ、そのことをよく分かるように教えてく
れなかつたのか。しかも大臣は、
儻者を

紀下 170' 8行

はむか ち 1789^p
馬せ向う

いこく ち 960^p
至極

かんれい ち 509^p
慣例

3.567^p

3570-1/3 8^p

紀下171^p

招き集めて謀り、軍を指揮して敵地である東

の天皇の居城へ馳せ向うたではないか

・駒の胸の内には、毅然と一ない、樹時屈し

した思いがあつた。

・また、敵の首長を倒した時、その妻妾を奸

し汚すということも、帰化人である駒にとつ

ては、至極あたりまえの慣例的行為にすぎなかつたのであろ

う。

・へ東の天皇が身んなにも尊いのなら

弑すべきでなかつたかも知れない。しかし

これは戦つたのだ。敵将の嬪を奸したか

らといつて何故、そんなにも責められなけ

れはならないのだ

・駒は、嬪を偷隠人で妻としたことについて

弁解したり、謝罪したりする気にならな

かつたに違ひない。

・なお、駒のこの時の言葉から推察すると、

偷隠人は、この時点において未だ、

宿禰大臣の娘であつたとは、全然知らなかつ

たのだらう

14^p

3562
3569

18^p

何となく
3563
3565
改行

次頁末
3.568P

こと

をか
犯す
不避
285P
1943P

不避
3552P
「ヒコウテ」
3575-1/5

と思われぬ。
●ところで、蘇我馬子は、
へ自分の娘を奸したのには許せない✓
と言つて駒を責めたわけではない。
●三矢目を射放った時の言葉の上では、あくまでも、
「天皇の嬪を、
あろうことか駒が奸した」といつて問責したのだつた。
●とはいへ、口に出して言ひないだけのことであつて、娘を驚着である東漢直駒に偷隠ま
れ、汚されたという悔しさは、覆ひ隠しようもなかつたのであろう。
●蘇我馬子は、たばかりか下
へ天皇を弑し、天皇の嬪でありかつまた娘である河上娘を偷んで犯し、我を逆臣の徒となした駒を、スタスタに切り裂いてやりたしという心境にあつたろう。
●そこに、今、
●全反省の色さえない、不敵不敵しいばかりの口答の弁が返つてきたのだつた。
●その言葉を聞いた時、馬子の全身の血は騒

こと

イカバカ 前頁20行

こと

かんよふ508¹ おゆ 紀下171¹
関与かみゆふと せす 藤原(田)前145¹

むさしえ 無惨 2148¹

こと 3,569¹

電 113¹ 電 113¹ 電 113¹

わがみ 我身 2370¹ 電 1652¹

わがみ 我身 683¹ 電 953¹ 3566-3/2

き、音を立てんばかりに逆巻き流れて焦れ狂
つた。
「おの小駒め。天皇を弑逆しておいて、何
も知らなかったですむと思っておるのか。天
皇の嬪を汚しておいて、謝る気もないと申す
のか。ええ、いっせいに収。せめて死んで罪を償
うかよいし。穢らわ。はな。うまこ
やにわに剣を抜き放った馬子は、駒の腸を
潰し、ついで首を刎ね返す刃で髪を切り払ったで
酸鼻を極めた屍を前に返す刃で髪を切り払ったで
のようにつ立っている馬子の目には、
身と重なり合って見えろのだった。
木に縛られ、斬られて死んだ駒の亡骸は、
馬子にとって、哀水、救い難い己自身の姿で
でもあった。
馬子は、駒に天皇殺害を命じたわけではな
かった。
さらに馬子は、駒が天皇の嬪を偷んで奸し
たというこにつけて、当然のこながら全

真赤な

まるで

次頁一行

3562 44

「いざ」この頁3行
ニキ

干支表

甲子	乙丑	丙寅	丁卯	戊辰	己巳	庚午	辛未	壬申	癸酉	甲戌	乙亥	丙子	丁丑	戊寅	己卯	庚辰	辛巳	壬午	癸未	甲申	乙酉	丙戌	丁亥	戊子	己丑	庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉	庚戌	辛亥	壬子	癸丑	甲寅	乙卯	丙辰	丁巳	戊午	己未	庚申	辛酉	壬戌	癸亥
177	176	175	174	173	172	171	170	169	168	167	166	165	164	163	162	161	160	159	158	157	156	155	154	153	152	151	150	149	148	147	146	145	144	143	142	141	140	139	138	137	136	135	134	133	132	131	130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	120	119	118
117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58
57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	前1	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63
64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123
124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183
184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243
244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303
304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363
364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423
424	425	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	466	467	468	469	470	471	472	473	474	475	476	477	478	479	480	481	482	483
484	485	486	487	488	489	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499	500	501	502	503	504	505	506	507	508	509	510	511	512	513	514	515	516	517	518	519	520	521	522	523	524	525	526	527	528	529	530	531	532	533	534	535	536	537	538	539	540	541	542	543
544	545	546	547	548	549	550	551	552	553	554	555	556	557	558	559	560	561	562	563	564	565	566	567	568	569	570	571	572	573	574	575	576	577	578	579	580	581	582	583	584	585	586	587	588	589	590	591	592	593	594	595	596	597	598	599	600	601	602	603
604	605	606	607	608	609	610	611	612	613	614	615	616	617	618	619	620	621	622	623	624	625	626	627	628	629	630	631	632	633	634	635	636	637	638	639	640	641	642	643	644	645	646	647	648	649	650	651	652	653	654	655	656	657	658	659	660	661	662	663
664	665	666	667	668	669	670	671	672	673	674	675	676	677	678	679	680	681	682	683	684	685	686	687	688	689	690	691	692	693	694	695	696	697	698	699	700	701	702	703	704	705	706	707	708	709	710	711	712	713	714	715	716	717	718	719	720	721	722	723
724	725	726	727	728	729	730	731	732	733	734	735	736	737	738	739	740	741	742	743	744	745	746	747	748	749	750	751	752	753	754	755	756	757	758	759	760	761	762	763	764	765	766	767	768	769	770	771	772	773	774	775	776	777	778	779	780	781	782	783
784	785	786	787	788	789	790	791	792	793	794	795	796	797	798	799	800	801	802	803	804	805	806	807	808	809	810	811	812	813	814	815	816	817	818	819	820	821	822	823	824	825	826	827	828	829	830	831	832	833	834	835	836	837	838	839	840	841	842	843
844	845	846	847	848	849	850	851	852	853	854	855	856	857	858	859	860	861	862	863	864	865	866	867	868	869	870	871	872	873	874	875	876	877	878	879	880	881	882	883	884	885	886	887	888	889	890	891	892	893	894	895	896	897	898	899	900	901	902	903
904	905	906	907	908	909	910	911	912	913	914	915	916	917	918	919	920	921	922	923	924	925	926	927	928	929	930	931	932	933	934	935	936	937	938	939	940	941	942	943	944	945	946	947	948	949	950	951	952	953	954	955	956	957	958	959	960	961	962	963

图·表·写真图版索引

义：

表：

写直图版：

番号	巻	頁	番号	巻	頁	番号	巻	頁	番号	巻	頁
1	1	36	51	1	361	101	2	102	151	2	307
2	1	37	52	1	372	102	2	104	152	2	322
3	1	58	53	1	376	103	2	105	153	2	323
4	1	71	54	1	377	104	2	107	154	2	326
5	1	84	55	1	385	105	2	108	155	2	328
6	1	85	56	2	9	106	2	112	156	2	327
7	1	86	57	2	10	107	2	119	157	2	329
8	1	87	58	2	11	108	2	124	158	2	335
9	1	90	59	2	12	109	2	126	159	2	360
10	1	91	60	2	13	110	2	126	160	2	363
11	1	92	61	2	15	111	2	128			
12	1	96	62	2	17	112	2	134			
13	1	97	63	2	17	113	2	135			
14	1	100	64	2	18	114	2	137			
15	1	101	65	2	19	115	2	138			
16	1	103	66	2	23	116	2	146			
17	1	116	67	2	24	117	2	147			
18	1	134	68	2	30	118	2	149			
19	1	135	69	2	31	119	2	152			
20	1	143	70	2	33	120	2	170			
21	1	160	71	2	35	121	2	172			
22	1	167	72	2	35	122	2	172			
23	1	170	73	2	35	123	2	173			
24	1	194	74	2	34	124	2	174			
25	1	203	75	2	34	125	2	174			
26	1	218	76	2	34	126	2	177			
27	1	219	77	2	41	127	2	177			
28	1	220	78	2	44	128	2	180			
29	1	248	79	2	46	129	2	181			
30	1	277	80	2	50	130	2	185			
31	1	279	81	2	51	131	2	186			
32	1	281	82	2	54	132	2	194			
33	1	282	83	2	55	133	2	200			
34	1	284	84	2	57	134	2	214			
35	1	286	85	2	60	135	2	219			
36	1	295	86	2	61	136	2	225			
37	1	306	87	2	69	137	2	241			
38	1	306	88	2	73	138	2	242			
39	1	306	89	2	74	139	2	249			
40	1	306	90	2	74	140	2	260			
41	1	306	91	2	75	141	2	264			
42	1	306	92	2	80	142	2	270			
43	1	311	93	2	82	143	2	281			
44	1	314	94	2	83	144	2	288			
45	1	315	95	2	87	145	2	289			
46	1	318	96	2	89	146	2	291			
47	1	325	97	2	94	147	2	293			
48	1	352	98	2	95	148	2	299			
49	1	352	99	2	96	149	2	300			
50	1	360	100	2	99	150	2	303			

[illegible]

番号	巻	頁	番号	巻	頁	番号	巻	頁
1	1	63	51	2	86	101	2	319
2	1	120	52	2	87	102	2	333
3	1	120	53	2	120	103	2	333
4	1	136	54	2	121	104	2	339
5	1	137	55	2	122			
6	1	138	56	2	124			
7	1	162	57	2	129			
8	1	164	58	2	144			
9	1	171	59	2	148			
10	1	183	60	2	161			
11	1	275	61	2	166			
12	1	293	62	2	167			
13	1	318	63	2	167			
14	1	321	64	2	170			
15	1	327	65	2	177			
16	1	327	66	2	179			
17	1	327	67	2	183			
18	1	327	68	2	183			
19	1	344	69	2	184			
20	1	351	70	2	190			
21	1	355	71	2	190			
22	1	355	72	2	191			
23	1	356	73	2	191			
24	1	357	74	2	194			
25	1	357	75	2	194			
26	1	359	76	2	196			
27	1	365	77	2	201			
28	1	366	78	2	202			
29	1	370	79	2	204			
30	1	370	80	2	205			
31	1	371	81	2	208			
32	1	374	82	2	229			
33	1	376	83	2	230			
34	1	383	84	2	232			
35	1	383	85	2	233			
36	1	396	86	2	234			
37	2	14	87	2	235			
38	2	26	88	2	239			
39	2	47	89	2	250			
40	2	52	90	2	253			
41	2	52	91	2	255			
42	2	52	92	2	255			
43	2	54	93	2	262			
44	2	55	94	2	263			
45	2	57	95	2	267			
46	2	58	96	2	276			
47	2	58	97	2	292			
48	2	63	98	2	294			
49	2	75	99	2	311			
50	2	84	100	2	314			

图

番号	卷	頁	番号	卷	頁
161	3	16	207	3	522
162	3	51	208	3	595
163	3	83	209	3	601
164	3	143	210	3	603
165	3	194	211	3	610
166	3	239	212	3	620
167	3	242	213	3	636
168	3	261	214	3	641
169	3	281	215	3	642
170	3	282	216	3	643
171	3	283	217	3	651
172	3	284	218	3	652
173	3	289	219	3	685
174	3	292	220	3	688
175	3	295	221	3	689
176	3	296	222	3	690
177	3	303	223	3	691
178	3	306	224	3	696
179	3	307	225	3	788
180	3	314	226	3	844
181	3	315			
182	3	346			
183	3	349			
184	3	356			
185	3	361			
186	3	362			
187	3	363			
188	3	365			
189	3	384			
190	3	388			
191	3	389			
192	3	393			
193	3	418			
194	3	441			
195	3	442			
196	3	473			
197	3	474			
198	3	475			
199	3	485			
200	3	486			
201	3	489			
202	3	490			
203	3	493			
204	3	512			
205	3	514			
206	3	515			

表

番号	卷	頁
16	3	19
17	3	24
18	3	44
19	3	202

写真図版

番号	卷	頁	番号	卷	頁
105	3	39	152	3	419
106	3	40	153	3	419
107	3	52	154	3	420
108	3	67	155	3	421
109	3	68	156	3	425
110	3	84	157	3	429
111	3	85	158	3	430
112	3	88	159	3	431
113	3	104	160	3	432
114	3	107	161	3	433
115	3	195	162	3	434
116	3	196	163	3	436
117	3	212	164	3	439
118	3	213	165	3	441
119	3	246	166	3	444
120	3	250	167	3	447
121	3	252	168	3	479
122	3	255	169	3	491
123	3	256	170	3	504
124	3	256	171	3	519
125	3	256	172	3	526
126	3	257	173	3	533
127	3	260	174	3	545
128	3	261	175	3	599
129	3	261	176	3	599
130	3	268	177	3	605
131	3	268	178	3	606
132	3	269	179	3	613
133	3	272	180	3	618
134	3	299	181	3	619
135	3	316	182	3	621
136	3	317	183	3	622
137	3	320	184	3	624
138	3	344	185	3	631
139	3	348	186	3	645
140	3	351	187	3	653
141	3	354	188	3	697
142	3	364	189	3	697
143	3	364	190	3	697
144	3	382	191	3	698
145	3	396	192	3	699
146	3	401	193	3	733
147	3	407	194	3	734
148	3	408	195	3	738
149	3	409	196	3	755
150	3	410	197	3	853
151	3	412			

図

番号	巻	頁
227	4	41
228	4	78
229	4	87
230	4	99
231	4	105
232	4	173
233	4	174
234	4	181
235	4	201
236	4	213
237	4	232
238	4	267
239	4	381
240	4	511
241	4	535
242	4	540
243	4	541
244	4	555
245	4	567
246	4	568
247	4	569
248	4	570
249	4	611
250	4	647
251	4	675
252	4	680
253	4	801
254	4	814
255	4	831
256	4	838
257	4	839
258	4	847
259	4	848
260	4	849
261	4	855
262	4	865

表

番号	巻	頁
20	4	37
21	4	135
22	4	358
23	4	377
24	4	654
25	4	808
26	4	817
27	4	893
28	4	906

写真図版

番号	巻	頁
198	4	44
199	4	65
200	4	108
201	4	111
202	4	112
203	4	113
204	4	122
205	4	175
206	4	182
207	4	183
208	4	419
209	4	420
210	4	425
211	4	490
212	4	491
213	4	501
214	4	503
215	4	543
216	4	580
217	4	603
218	4	604
219	4	652
220	4	701
221	4	702
222	4	835
223	4	846
224	4	859
225	4	892
226	4	893
227	4	897
228	4	902
229	4	905

図

番号	巻	頁
263	5	40
264	5	41
265	5	46
266	5	61
267	5	65
268	5	68
269	5	73
270	5	102
271	5	103
272	5	104
273	5	197
274	5	200
275	5	231
276	5	293
277	5	297
278	5	322
279	5	414
280	5	445
281	5	445
282	5	450
283	5	531
284	5	562
285	5	563
286	5	568
287	5	571
288	5	577
289	5	588
290	5	590
291	5	596
292	5	597
293	5	620
294	5	659
295	5	674
296	5	698
297	5	712
298	5	715
299	5	737

表

番号	巻	頁
29	5	218

写真図版

番号	巻	頁	番号	巻	頁	番号	巻	頁
230	5	42	267	5	525	304	5	656
231	5	49	268	5	533	305	5	657
232	5	51	269	5	536	306	5	658
233	5	52	270	5	541	307	5	661
234	5	53	271	5	542	308	5	662
235	5	62	272	5	543	309	5	662
236	5	63	273	5	546	310	5	664
237	5	64	274	5	547	311	5	675
238	5	67	275	5	556	312	5	687
239	5	69	276	5	557	313	5	688
240	5	70	277	5	558	314	5	689
241	5	105	278	5	559	315	5	689
242	5	106	279	5	560	316	5	695
243	5	107	280	5	561	317	5	705
244	5	198	281	5	579	318	5	718
245	5	199	282	5	580	319	5	720
246	5	210	283	5	581	320	5	726
247	5	211	284	5	582	321	5	739
248	5	232	285	5	589	322	5	741
249	5	256	286	5	591	323	5	744
250	5	274	287	5	591	324	5	750
251	5	308	288	5	592	325	5	751
252	5	309	289	5	593	326	5	790
253	5	313	290	5	593	327	5	794
254	5	314	291	5	594			
255	5	362	292	5	595			
256	5	413	293	5	601			
257	5	426	294	5	605			
258	5	427	295	5	609			
259	5	428	296	5	610			
260	5	459	297	5	613			
261	5	460	298	5	635			
262	5	464	299	5	636			
263	5	491	300	5	647			
264	5	495	301	5	653			
265	5	499	302	5	654			
266	5	500	303	5	655			

図

番号	巻	頁
300	6	56
301	6	63
302	6	65
303	6	83
304	6	89
305	6	106
306	6	107
307	6	184
308	6	186
309	6	290
310	6	375
311	6	376
312	6	393
313	6	398
314	6	416
315	6	519
316	6	522
317	6	545
318	6	549
319	6	550
320	6	617
321	6	634
322	6	755
323	6	776
324	6	777
325	6	792

表

番号	巻	頁
30	6	91

写真図版

番号	巻	頁	番号	巻	頁
328	6	33	365	6	477
329	6	34	366	6	478
330	6	35	367	6	479
331	6	36	368	6	482
332	6	52	369	6	483
333	6	53	370	6	486
334	6	54	371	6	506
335	6	57	372	6	507
336	6	58	373	6	523
337	6	64	374	6	632
338	6	68	375	6	633
339	6	69	376	6	635
340	6	70	377	6	679
341	6	76	378	6	750
342	6	120	379	6	751
343	6	121	380	6	773
344	6	155	381	6	774
345	6	156	382	6	775
346	6	159	383	6	775
347	6	164	384	6	778
348	6	179	385	6	779
349	6	185	386	6	779
350	6	204	387	6	780
351	6	228	388	6	781
352	6	231	389	6	782
353	6	232	390	6	783
354	6	278	391	6	784
355	6	283	392	6	785
356	6	284	393	6	786
357	6	350	394	6	787
358	6	360	395	6	788
359	6	400	396	6	789
360	6	401	397	6	790
361	6	426	398	6	791
362	6	431	399	6	818
363	6	432			
364	6	433			

図

番号	巻	頁
326	7	20
327	7	56
328	7	79
329	7	100
330	7	242
331	7	272
332	7	277
333	7	257
334	7	363
335	7	398
336	7	431
337	7	507
338	7	514
339	7	526
340	7	528
341	7	553
342	7	602
343	7	605
344	7	606
345	7	607
346	7	616
347	7	618
348	7	629
349	7	635
350	7	636
351	7	641
352	7	645
353	7	646
354	7	647
355	7	650
356	7	654
357	7	661
358	7	667
359	7	679
360	7	680
361	7	681

表

番号	巻	頁
31	7	107
32	7	108
33	7	496

写真図版

番号	巻	頁	番号	巻	頁
400	7	34	439	7	403
401	7	35	440	7	405
402	7	36	441	7	406
403	7	37	442	7	407
404	7	46	443	7	411
405	7	59	444	7	412
406	7	79	445	7	413
407	7	87	446	7	420
408	7	88	447	7	428
409	7	99	448	7	432
410	7	147	449	7	434
411	7	191	450	7	438
412	7	218	451	7	439
413	7	239	452	7	487
414	7	243	453	7	503
415	7	244	454	7	504
416	7	244	455	7	505
417	7	245	456	7	506
418	7	246	457	7	508
419	7	247	458	7	522
420	7	248	459	7	522
421	7	281	460	7	531
422	7	284	461	7	540
423	7	311	462	7	542
424	7	341	463	7	567
425	7	364	464	7	568
426	7	366	465	7	569
427	7	367	466	7	587
428	7	368	467	7	617
429	7	369	468	7	621
430	7	374	469	7	622
431	7	383	470	7	642
432	7	390	471	7	651
433	7	391	472	7	655
434	7	392	473	7	668
435	7	393	474	7	677
436	7	399	475	7	678
437	7	399	476	7	682
438	7	400	477	7	715

図

番号	巻	頁	番号	巻	頁
362	8	81	401	8	461
363	8	88	402	8	469
364	8	93	403	8	470
365	8	95	404	8	479
366	8	112	405	8	483
367	8	166	406	8	523
368	8	167	407	8	523
369	8	168	408	8	559
370	8	169	409	8	576
371	8	170	410	8	582
372	8	176	411	8	588
373	8	202	412	8	611
374	8	203	413	8	612
375	8	217			
376	8	218			
377	8	300			
378	8	301			
379	8	305			
380	8	322			
381	8	333			
382	8	335			
383	8	342			
384	8	353			
385	8	355			
386	8	356			
387	8	360			
388	8	373			
389	8	377			
390	8	385			
391	8	386			
392	8	389			
393	8	403			
394	8	414			
395	8	415			
396	8	416			
397	8	428			
398	8	431			
399	8	432			
400	8	436			

表

番号	巻	頁
34	8	108
35	8	109
36	8	130
37	8	154
38	8	252
39	8	443
40	8	498
41	8	603

写真図版

番号	巻	頁	番号	巻	頁	番号	巻	頁
478	8	75	517	8	336	556	8	513
479	8	76	518	8	337	557	8	514
480	8	90	519	8	338	558	8	515
481	8	94	520	8	343	559	8	516
482	8	96	521	8	344	560	8	517
483	8	101	522	8	352	561	8	518
484	8	171	523	8	354	562	8	519
485	8	172	524	8	359	563	8	520
486	8	173	525	8	372	564	8	521
487	8	179	526	8	375	565	8	522
488	8	196	527	8	376	566	8	524
489	8	197	528	8	382	567	8	558
490	8	198	529	8	387	568	8	573
491	8	199	530	8	388	569	8	589
492	8	200	531	8	390	570	8	618
493	8	201	532	8	401	571	8	619
494	8	203	533	8	402	572	8	620
495	8	214	534	8	422	573	8	621
496	8	223	535	8	423	574	8	687
497	8	224	536	8	424	575	8	702
498	8	231	537	8	425	576	8	707
499	8	232	538	8	426	577	8	708
500	8	248	539	8	427			
501	8	266	540	8	428			
502	8	267	541	8	430			
503	8	268	542	8	449			
504	8	295	543	8	459			
505	8	296	544	8	460			
506	8	304	545	8	460			
507	8	306	546	8	463			
508	8	307	547	8	464			
509	8	311	548	8	465			
510	8	312	549	8	466			
511	8	315	550	8	467			
512	8	328	551	8	468			
513	8	329	552	8	486			
514	8	330	553	8	497			
515	8	331	554	8	504			
516	8	334	555	8	505			

図

番号	巻	頁
414	9	120
415	9	133
416	9	147
417	9	283
418	9	322
419	9	326
420	9	327
421	9	352
422	9	401
423	9	413
424	9	414
425	9	456
426	9	484
427	9	486
428	9	518
429	9	519
430	9	616
431	9	617
432	9	675
433	9	708
434	9	740
435	9	750
436	9	751

表

番号	巻	頁
42	9	22
43	9	139
44	9	140
45	9	192
46	9	220
47	9	395
48	9	434
49	9	437
50	9	534
51	9	604
52	9	784

写真図版

番号	巻	頁	番号	巻	頁
578	9	40	617	9	521
579	9	59	618	9	562
580	9	66	619	9	709
581	9	115	620	9	710
582	9	116	621	9	740
583	9	119	622	9	741
584	9	121	623	9	742
585	9	122	624	9	743
586	9	122	625	9	752
587	9	123	626	9	766
588	9	124	627	9	770
589	9	125	628	9	771
590	9	148	629	9	772
591	9	149	630	9	773
592	9	278	631	9	774
593	9	282	632	9	775
594	9	290			
595	9	299			
596	9	303			
597	9	304			
598	9	318			
599	9	319			
600	9	320			
601	9	321			
602	9	323			
603	9	452			
604	9	482			
605	9	482			
606	9	483			
607	9	483			
608	9	485			
609	9	492			
610	9	493			
611	9	494			
612	9	495			
613	9	496			
614	9	497			
615	9	498			
616	9	520			

1504 大正14 (中心人物)

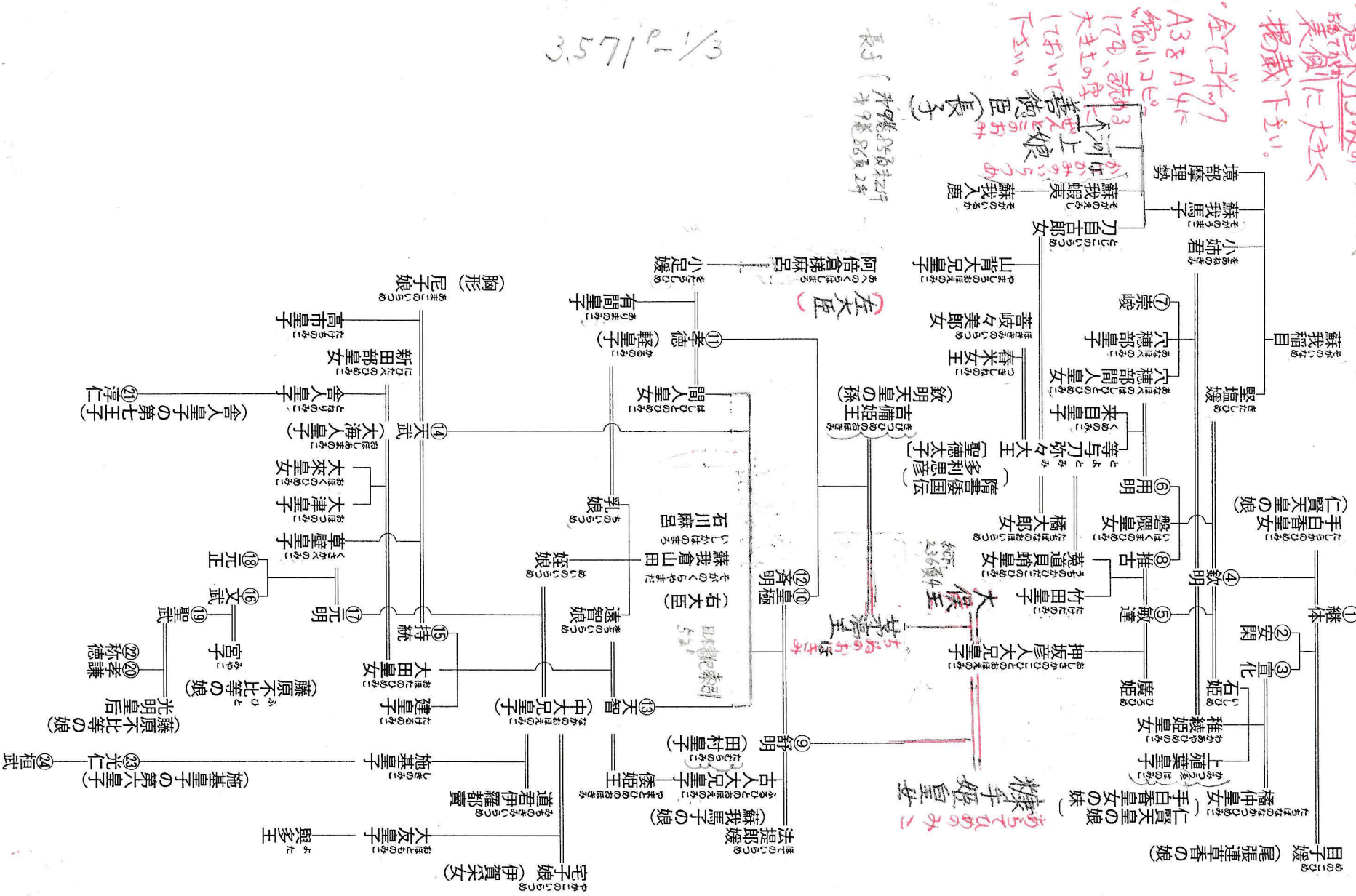
1504 皇室系譜 (継体天皇 ~ 桓武天皇)

巻末 A3 版 (1304 年) (数字は、『日本書紀』、『続日本書紀』による皇位継承の順序)
表紙に A3 版 (1304 年) (数字は、『日本書紀』、『続日本書紀』による皇位継承の順序)
掲載下をい。

全 247
A3 版 A4 版
縮小コピー
170、読
大正14
170、読
下をい。

長子 (170 年 86 歳 24 年)

継体天皇以降の皇室系図 (数字は『日本書紀』『続日本書紀』による皇位継承の順序)

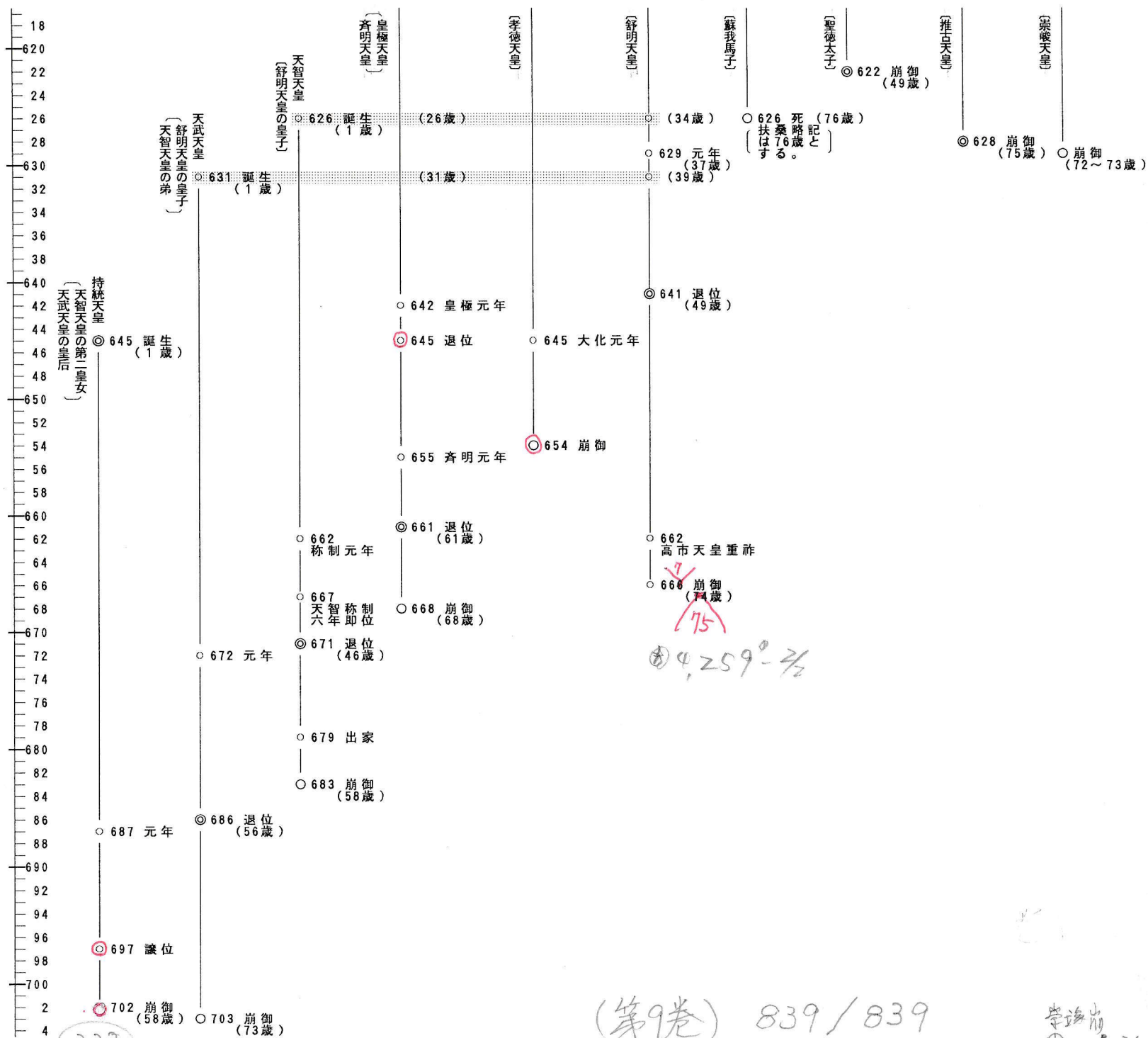


長子 (170 年 86 歳 24 年)
170、読
大正14
170、読
下をい。

061523年

(第9卷) 839/839

李瑞山
⑤201^P-2/2



〔著者紹介〕

こがけいさく
古閑炯作

昭和16年（1941年）5月に生まれる。

著書

・『小野小町』第1刷、第2刷。（株）新人物往来社〔現在、株式会社KADOKAWA〕。

（『新・やまと物語』の末尾あたりから一部抜粋）

* 第2刷（91頁）「第九十三章」から読んでいただきたいと思います。

興味深い筋書きとなっています。

・『新・やまと物語』第一巻・第二巻まで刊行。株式会社KADOKAWA。

・『新・やまと物語』第三巻以降は、インターネットで、閲覧ください。